

# 資料紹介

## 現代中央アジアの新しい概説書

岩崎一郎・宇山智彦・小松久男編『現代中央アジア論：変貌する政治・経済の深層』

日本評論社，2004年，301 + xxi ページ。

ソ連崩壊後，中央アジア諸国は政治，経済，社会などさまざまな分野でめまぐるしい変化を遂げてきた。この地域に関する日本語の概説・入門書としては，石田進編『中央アジア・旧ソ連イスラーム諸国の読み方』（ダイヤモンド社，1994年），宇山智彦編『中央アジアを知るための60章』（明石書店，2003年）などがある。しかし，独立国家としての歩みを体系的に論じたものとしては，本書が初の本格的な概説書であるといえよう。本書は，総論と，第Ⅰ部（政治編：独立国家建設の試練），および第Ⅱ部（経済編：計画から市場へ）によって構成される。過去の歴史的遺産と現代への連続性，政治と経済の相互作用に注目しつつ，中央アジア諸国の多様性を特定の切り口から横断的に比較しているのが本書の特徴である。われわれ執筆陣のねらいは，入門者に配慮すると同時に，最新の研究動向を盛り込み，専門家にとっても読み応えのあるテキストを作ることにあった。それが成功したか否かの判断は読者に委ねたい。

なお，本書の構成は以下のとおり。巻末の推薦文献とインターネット情報検索リストには，個々に解説が加えられている。

- 総 論 中央アジアの眺望：歴史と地域（小松久男）
- 第1章 ソ連時代の共和国政治：共産党体制と民族エリートの成長（地田徹朗）
- 第2章 政治制度と政治体制：大統領制と権威主義（宇山智彦）
- 第3章 民族と政治：国家の「民族化」と変化する民族間関係（岡奈津子）
- 第4章 宗教と政治：イスラーム復興と世俗主義の調和を求めて（帯谷知可）
- 第5章 国際関係と安全保障：地域国際システムの形成と越境する脅威（湯浅剛）
- 第6章 ソ連時代の共和国経済：計画経済体制下の中央アジア地域開発（中村泰三）
- 第7章 市場経済移行とマクロ経済実績：分極化する経済システム（岩崎一郎）
- 第8章 農業改革：市場システム形成の実際（錦見浩司）
- 第9章 環境問題：「負の遺産」と市場経済化のはざま（片山博文）
- 第10章 世界経済への統合：扉を開く天然資源（輪島実樹）

推薦文献

インターネット情報検索リスト

年 表

索 引

（岡 奈津子）

---

## 中東におけるイスラム運動

---

Quintan Wiktorowicz, *Islamic Activism : A Social Movement Theory Approach*,  
Bloomington : Indiana University Press, 2004, 316 p.

競争的な政党制がほとんど存在しない中東では、一般大衆が政治的影響力を行使できるのはもっぱら社会運動である。中東の社会運動を代表するイスラム運動についての研究は多いが、ほとんどが叙述的にとどまっている。本書は中東 8 カ国・地域のイスラム運動の 11 の事例を社会運動論の枠組みで分析している。既存の社会運動論も明確な理論をもつわけではないが、本書はその中心的な分析概念(政治的機会、動員構造、意味づけ)を用いて中東のイスラム運動の特質を明らかにしようとしている。たとえば、アルジェリア、エジプト、パレスチナ、およびバハレーンの例で、イスラム運動の暴力性が政治的機会に応じた戦術として用いられていることが共通的に指摘されている。各章は短いためにそれぞれの主張が厳密に検証されているとはいえないが、事例別に具体的な仮説を導き出すことには成功している。本論部分の構成は以下のとおり。

1. アルジェリアにおける GIA 暴力の政治過程的説明
2. エジプトのイスラム運動における、闘争としての暴力
3. 現代バハレーンにおける闘争の目録
4. 社会運動としてのハマス
5. イスラム派社会運動のネットワーク化
6. イエメンにおけるイスラム派女性
7. イランにおけるバザールの動員
8. イエメンにおける政治的機会と連合形成
9. エジプトにおける利益、観念、イスラム主義の広がり
10. サウジアラビアにおけるイスラム主義と改革
11. トルコにおける政治的機会、アイデンティティ、イスラムの意味

(間 寧)